てきぱき動くことの価値

教師の言葉で、「Ａさせたいなら Ｂと言え」というものがあります。

例えば、「早く書きなさい」と言うより「鉛筆の先から煙が出るくらいのスピードで書きなさい」と言った方が、筆記の速度は上がります。

イメージが持てるからです。

例えば、「こちらを向きなさい」というより、「おへそを先生に向けます」と言った方が全員の注意が向きます。

「へそ」という小さくて意外なものが、子どもたちの耳に残るからです。

例えば、姿勢が悪い時に「姿勢を正しなさい」と言うより、「腰骨を立てましょう」「机と顔は３０ｃｍ話します。」と言った方が美しい姿勢になります。

具体的な数字が入っているからです。

このように、起こしたい変化や促したい行動を、そのままストレートに言うの（A）ではなく、より響く言葉や伝え方（B）を研究していく。

教師としては、ここの修業や鍛錬は必須だと思っています。

ですから、いろんな話や言葉の引き出しを持てるようにと、私も日々修行中です。

ここ最近、目に見えて子どもたちの行動のスピードが磨かれていたように感じます。

諸々の準備場面もそうですし、百人一首においてもそのスピードは最初の頃とはけた違いです。

４月のはじめは１試合におよそ５分かかっていましたが、今ではそのスピードは１分を切ります。

一つ一つの歌を覚えてきたこと、反応速度が上がってきたこと、１ 試合に書ける集中力が磨かれてきたこと、などが要因です。
一つ一つは、テストの点や図工の作品とは違い、目には見えません。
けれども、この「見えない成長」こそが、見える世界の成長を支えていることはこれまでにも伝え続けてきました。
学習においても、行事においても、その他諸々の準備を行う時にも、素早くサッと動ける力はまさに「宝」です。
これは、良いクラスの一つの条件ともいえるでしょう。

その動きをさらに加速させたいなぁとの思いから、今朝のモーニングミーティングで次のような話をしてみました。
ある雑誌に載っていた、「入社試験」の話です。

「入社試験」というものがあります。
どこかの企業や会社で働きたい時に受ける試験のことです。
筆記試験だったり、面接試験だったり、内容は様々ですが、なかにはこんな試験をしているところもあります。

担当者が会社の簡単な説明をしたあと、受験者に昼食をとってもらいます。
その後、社長室で面接を受けるという段取りです。
受かるのは、どういう人か。
なんと、早く昼食を食べ終えて面接に来た人から順に、３人を採用するそうです。
つまり、「食べっぷり」で合否を決めているのです。
社長は次のように話しているそうです。
「うちでは、やる気のある者がほしい。そして、素早く動ける者が欲しい。それを確かめるのが、学生の食べっぷりである。」

これは、ある雑誌に載っていた話です。
分かっていると思いますが、みんなに伝えたいのは「給食は早く食べなさい」ということではありません。(笑)
大切なのは、「素早く動けることは『宝』である」ということです。
集合でもそうじでも準備でも、素早くさっと動いてできる人は、それだけで大変素晴らしい事です。

素早く動いたその積み重ねは、将来意外なところで自分を助けてくれるかもしれませんね。

この話の後に、普段通り漢字の学習が始まったわけですが、その速度は先週までのそれとまた大きく変わりました。

一段か二段、ギアが上がった印象です。

「早くしなさい」は大人から子供に言われる小言の中でも筆頭格に挙げられますが、「なぜ早く動くことが大切なのか」を子どもたちが理解したならば、それは根本的な変化や成長につながっていきやすいといえるでしょう。

早くしてほしい時に「早くしなさい」と伝えるのは、A させたいときに A と言っていることであり、一方「入社試験の話」は A させたいときに B と伝えている例であるというわけです。

ちなみに、こういう意表を突く意外な話が子どもたちは大好きです。

入社試験の話をした時も、食い入るようにしてみんな集中して聞いていました。

もちろん時間はごくごく短く（長くてくどくどとした話は子どもたちは聴きません）、わずか１、２分の話です。

が、先にも書いた通り、全体の動きの速度はこの後大きく変わっていきました。

毎回のように「早くしなさい」と言うのではなく、できるだけ子どもたちが納得して、「そのようにしたい！」と思って行動が起きれば最高です。

尚、今朝はもう少しだけ時間があったので、別の入社試験の話もしてみました。

ある会社での入社試験当日。

会社の入り口の門の近くで、一人のおじいさんが掃除をしていました。

見るからに汚れた清掃用の作業着を着て、ほうきをかけているおじいさん。

近くを、ぞろぞろと試験を受ける若者たちが通り過ぎていきます。

ある若者は、試験のことに頭がいっぱいなのか、険しい表情でおじいさんの近くを素通りしました。

ある若者は、そうじをしているおじいさんに気づいて軽くペコリと会釈をしました。

ある若者は、「おはようございます！」と元気に挨拶をしました。

挨拶だけでなく「朝早くからお掃除ありがとうございます」と感謝の言葉も伝えた人もいたそうです。

そうして、試験を受ける若者たちが会社内に全員移動を完了した後に、い

よいよ試験が始まりました。
　最初は、一人ずつの面接試験です。
　ここまでの話を聞いた人で、ピンと来た人がいるかもしれませんね。
　（子どもたちの中から「分かった！」と声が上がり始めます。）
　そう、先ほどの掃除をしていたおじいさんこそが、この会社の責任者であり、社長だったのです。
　社長さんが入り口で見ていたのは、「相手がどんな人であろうとも態度を変えずに大切に接することができるか」「初対面の相手にすがすがしい挨拶をすることができるか」だったということです。

　「てきぱきと動けること」
　「爽やかな朝の挨拶ができること」
　どちらの力も、日々の学校生活の中で磨き続けるチャンスが眠っていることです。
　ここまでを話した上で、この日の朝、素晴らしい挨拶をしていた子たちや素早く準備を済ませていた子たちの名前を呼んで、改めて全体の前で褒めました。
　A させたいなら A ではなく、A させたいなら B。
　響く言葉や伝え方を、私たちも日々鍛えていきたいと思います。

☆↓読者ページはこちらから↓☆ご意見ご感想など気軽にお寄せください

https://docs.google.com/forms/d/1qqf4cPLcjpcWaimWdu-6lFM73JahODYK4ROldg7jLxM/edit